

# 技術・家庭科（家庭分野）の主張

## 1 教科で育みたい人間像

5 「生活」とは、人が生きていくために必要である様々な活動を行うことです。それは、社会の影響を受け、常に変化するものです。さらに、生活する主体者の思いや欲求によって、変えることができるものでもあります。人が自ら生活をよくし

10 ていこうとする思いは、いつの時代も変わらないものでしょう。  
技術・家庭科は、子どもたちを「生活」の場に誘う教科であり、「生活」の幅を広げたり、質を高めたりするための教科であると考えます。「生活の  
15 場に誘う」とは、多様な生活場面の中から、子どもたちが学習するための場面を切り取り、そこへひきつけることです。その「場」の中で活動することを通して、解決していきたい問題を見つけ、自分なりの考えをもち、互いにかかわらせながら  
20 学習を進めていきます。そこで得たものを生活に

生かすことで、さらに学ぶ意欲が高まるでしょう。生活の幅を広げたり、質を高めたりするためには、自分ではない「他者」の存在が欠かせません。年代や立場が異なる人々の視点で、生活を見つめ、  
25 それらの人々にとってのよりよい生活を自分なりに考えていくことで、自分の生活にとっても幅が広がったり、質が高まったりするでしょう。そのような活動を通して「生活」をとらえ直していくことにより、子どもたちは豊かな生活を自然と求  
30 めていくこととなります。

以上のことにより、技術・家庭科で育みたい人間像を「**豊かな生活を創る人**」としました。子どもたちが「誰にとって」という視点を明確にして学び合うことで、自分や他者にとってのよりよい  
35 生活を創造できるようになることを願っています。

## 2 育みたい人間像に迫るために教科で大切にすべきこと

家庭分野で扱う内容は、私たちが日々、繰り返  
40 し行っている活動についてであり、生活そのものだと言えます。日常生活の中で、普段は当たり前のように行っていることを改めて見つめ直し、実践することで豊かな生活をめざしていくことが家庭分野における学びだと考えています。

45 私たちの生活には、必ず自分以外の他者がかかわっています。その中で「**豊かな生活を創る人**」を育むために、「誰のためか」を明確に設定し、自分の視点と他者の視点から「ひと・もの・こと」を見直していく過程を大切にしていきたいと思  
50 います。人によって、「豊かな生活」のとらえ方は異なり、自分にとって快適であることが、相手にとっても快適であるとは限りません。便利さや安全性などについても同様のことが言えるでしょう。

そこで、子どもたちが他者の視点をもつために、  
55 互いの考えを伝え合うことを通して、ものの見方や考え方などの違いを知る機会を大切にしていきたいと思  
60 ります。自分とは異なる視点を知ること  
65 りも「豊かな生活」に近づくだけでなく、「他者にとっても豊かな生活」を考えるきっかけにもなる

でしょう。自分と他者の立場から考えたとき、新たな問題が見つかるかもしれません。そのときは、また異なる立場から問題を見つめ、考えをかかわ  
70 らせることで解決策を探っていきます。このような活動を通して、一人一人が視点を広げたり、考えを深めたりしながら、集団でよりよい解決策を見出そうとする姿は、先人たちが生活を豊かにしようとしてきた姿と同様であると言えるのではな  
75 いでしょうか。

また、実験や体験などを設定し、子どもたちが考えた解決策を検証する機会を大切にしたいと考えています。これにより、課題意識を高めたり、  
80 実生活に生かしたときの具体的なイメージを構築  
85 したりすることができ、自分の生活に進んで生かすことができるはず  
90 ます。実際に行うことで、よりよくなったという実感が得られたり、改善点が見つかったりすることにより、さらに他の場面でも工夫しようとする意欲につながっていくでし  
95 ょう。

このように、家庭分野の授業では、普段、何気なく送っている生活について、**自分と他者の視点から見直し検証**することで、豊かな生活を創っていけるよう、授業実践を重ねていきます。